

# 県内の戌(いぬ)年生まれ 21万8千人

## —— 県内総人口の7.4%を占める ——

県内の年男、年女は218,153人

茨城県常住人口調査の結果をもとに、平成6年

1月1日現在の県内の「戌」年生まれの人口を推計すると、218,153人、県内総人口に占める割合

は7.4%になります。男女別では、男性が108,149人、女性が110,004人で、女性が1,855人上回っています。

また、年齢別にみると、平成6年に24歳になる昭和45年生まれの世代が一番多くなっています。

平成6年1月1日現在茨城県内の戌年生まれ人口（推計）

生まれた年	年齢	推計人口(男女計)	推計人口(男)	推計人口(女)
総 数	一	218 153人	100.0%	108 149人
昭和57年	12歳	39 084	17.9	20 071
	45	40 938	18.8	21 019
	33	38 129	17.5	19 533
	21	39 408	18.1	20 547
	9	30 999	14.2	15 804
大正11	72	20 520	9.4	7 968
明治43	84	8 637	4.0	3 113
31	96	438	0.2	94

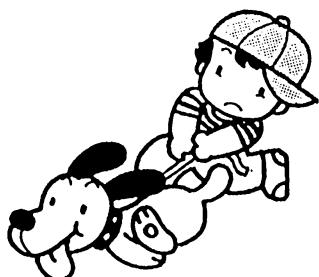
注) 1. 100歳以上の人口及び年齢不詳については除いた。

2. 年齢は平成6年中に達する年齢である。

### 未(ひつじ)年生まれが最も多い

県内総人口を十二支別にみると、未年生まれが最も多く253,416人で、次いで丑年生まれ、辰年生まれの順となり、最も少ないのが、戌年生まれです。

(統計インフォメーション No.42から)



平成6年1月1日現在十二支別県内人口（推計）

十二支別	人口(人)	順位	構成比
子(ね)	247 104	7	8.4%
丑(うし)	252 875	2	8.6
寅(とら)	248 220	6	8.5
卯(う)	244 096	8	8.3
辰(たつ)	250 523	3	8.5
巳(み)	250 214	5	8.5
午(うま)	237 227	11	8.1
未(ひつじ)	253 416	1	8.6
申(さる)	250 356	4	8.5
酉(とり)	237 960	10	8.1
戌(いぬ)	218 153	12	7.4
亥(い)	241 500	9	8.2
100歳以上及び不詳	3 752	—	0.1
総数	2 935 396	—	100.0

## 【新着資料案内】

この資料は、平成5年12月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用下さい。

行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線 2238・2239)

# 経済動向

## 国内の動き

### ●家庭の耐久消費財 ストック調整急ピッチ

バブル期に家庭で買い込んだ耐久消費財のストック調整が急ピッチで進んでいる。経済企画庁の推計によると、92年末の家計の主要耐久財残高は81兆1000億円で、前年末に比べ実質5.6%増となった。この伸びは、統計の比較が可能な70年以降の最低。耐久財の売れ行きは93年に入ってから

### ●対外直接投資9.6%減

大蔵省が発表した93年度上期(4~9月)の対外・対内直接投資実績によると、日本から海外への直接投資額(届け出ベース)は157億1100万ドルと前年同期に比べ9.6%減少した。景気低迷で、国内の工場を優先的に活用した企業や、海外投資に資金をつぎ込むことに慎重になった企業が多いとみている。

### ●貸出残高伸び最低

全国銀行協会連合会が発表した預金・貸出金速報によると、都市銀行11行の11月末の貸出残高伸び率は前年同月比0.2%増にとどまり、これまでもっとも低かった93年5月末時点の伸び率(0.3%)を下回る過去最低となった。個人向け、法人向けともに貸し出し需要が低迷しているほか、不良債権償却のため銀行の体力が低下し、貸し出し姿勢も慎重になっている。

も前年水準を下回っており、残高の伸びはさらに低下している見込みだ。

また、92年の家計の可処分所得に対する耐久消費財支出の比率は5.5%で、バブル前の86年以来、6年ぶりの低水準になった。(12月27日付 日経)

すでに多くの業種では、海外投資が一巡したとの見方もある。業種別では、これまで主力だった自動車など輸送機や電機がともに同25%強も減少した。

一方、海外から日本への直接投資額(報告・届け出ベース)も同43.9%減の11億8300万ドルとなった。

(12月4日付 日経)

重になっていることが伸び悩みの原因だ。

また、都銀の11月末の貸出残高は、221兆1227億円であった。長期信用銀行では同0.6%増の47兆2843億円、信託銀行が同3.4%増の24兆7435億円(信託勘定を除く)。景気の低迷が長引いている結果、企業の設備投資抑制などが続いていることが背景にありそうだ。(12月8日付 日経)

## 県内の動き

### ●県内最大の工業ゾーン誕生

高萩市と北茨城市的丘陵地域に、内陸部では県内最大の工業ゾーンが誕生する。既に稼働している手綱工業団地(高萩市)と中郷工業団地(北茨城市)に、92年7月に造成が始まった赤浜地区工業団地(高萩市赤浜)と、95年から着工予定の南中郷工業団地(北茨城市中郷町)を合わせると約270

ヘクタールとなり、県内の内陸部工業ゾーンでは最大規模になる。

手綱、中郷両工業団地には京浜地方の中堅企業約50社が立地しており、赤浜、南中郷が完成すれば、全体では約80社が入ることになる。(12月31日付 茨城)

### ●負債総額は936億円

東京商工リサーチ水戸支店がまとめた93年1年間の県内倒産状況によると、負債総額(負債額1000万円以上)は936億円に上り、過去最高を記録した。バブルの後遺症と円高、構造不況が重なり大型倒産が多発したためワースト記録を塗り替えた。

集計によると、負債額1000万円以上の企業倒産は前年

より19件増え142件。件数は85年の144件に次いで過去7番目。

業種別にみると、建設業44件、販売業41件、サービス業ほか37件、製造業20件とほぼ全業種に広がっている。

12月の倒産件数は11件、負債総額は105億6000万円で、負債総額は今年2番目。(12月28日付 茨城)